

第21回基本政策部会 議事要旨

1 日時

令和3年11月1日(月) 13:00~15:00

2 場所

中央合同庁舎4号館11階 共用第1特別会議室

3 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、石田委員、片岡委員、工藤委員、栗原委員、篠原委員、白坂委員、角南委員、常田委員、林委員

(2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 河西事務局長、岡村審議官、恒藤参事官、坂口参事官、笠間企画官

(3) オブザーバ

宇宙航空研究開発機構(JAXA) 石井理事

(4) 関係省庁

総務省国際戦略局宇宙通信政策課長	山口 真吾
外務省総合外交政策局宇宙・海洋安全保障政策室長代理	山後 貴弘
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課長	福井 俊英
経済産業省製造産業局航空機武器宇宙産業課宇宙産業室長補佐	伊奈 康二
環境省地球環境局総務課脱炭素化イノベーション研究調査室長	河村 玲央

4 議事要旨(○:意見等)

事務局及び関係省庁から資料1~7に基づいて説明。以下の意見があった。

<宇宙基本計画工程表の改訂について>

- 宇宙分野は変化が早くなっている。世界のスピードに太刀打ちできないと意味がない。どうやったら世界に勝てるのか、どうやったら世界のスピードについていけるのかを考えて取り組みを進めるべき。
- 海外との連携、民間企業との連携も重要。政府の資金で民間の資金を呼び込むといった工夫も考えるべき。
- 地球温暖化対策にはデータが重要であり、GOSATが大きな貢献をすることが期待される。精度の向上に加えて、そのデータが国際的に利用されるよう、各国への働きかけにしっかりと取り組んで欲しい。
- 宇宙太陽光発電については、他国も取組を加速しており、文部科学省と経済産業省がしっかりと連携して取組を加速することが重要。また、海外と協力する、焦点を絞って開発するなどの工夫についても、検討していくべき。
- 宇宙科学・探査を強化していくためにも、輸送コストの低減は重要。
- 宇宙太陽光発電の実現には、輸送コストの低減が重要。将来宇宙輸送システムの開発

と、宇宙太陽光発電の開発や衛星の開発は、よく連携して進めるべき。

- MMX（火星衛星探査計画）は科学的意義が大きく、技術的にもはやぶさ2を上回る技術が求められる。はやぶさ2の時と同様に、JAXA全体の技術力を結集して取り組んで欲しい。
- アルテミス計画は、将来的に民間による活用を広げていくことを念頭において進めてほしい。
- 小型衛星コンステレーションについては、具体化に向けた検討が迅速に進められていることは評価する。
- 小型衛星コンステレーションについて、ハードの開発も重要であるが、災害対応への利用やビジネスに繋がるようユーザーを念頭に置いた開発が重要。また、衛星データ以外のデータもあわせて、課題解決につながるソリューションを提供する仕組みの開発も検討して欲しい。
- 小型衛星コンステレーションの開発にあたっては、開発と実証を早いサイクルで回していくことが世界の主流であり、日本もこの世界の動きに遅れないよう、スピードをもって進めていくことが重要。我が国独自のコンステレーションをいつまでに構築するのか、スケジュールを明確化することも検討すべき。
- アンカーテナントは大きなインパクトがある。政府の政策的位置づけを整理するとともに、しっかりと予算を確保することで効果的に取り組んで欲しい。
- 衛星間光通信の技術開発については、リモセンだけではなく、通信サービスへの応用もありえる。海外への売り込みも念頭に置いて取組を進めるべき。